

HD  
DIGITAL

DIGITAL COLORED COMICS

1

SHUEISHA



PART 2 十三組の十三人編

原作：西尾綾新 漫画：曉月あきら







プロジェクター――

ですか？

ええ



私は  
便宜上

それを  
「フラスコ計画」と  
呼んでいます

第22箱

「君達はどう思いました？」







「遠くまで  
ひたすら  
飛ぶ」

「飛ぶの内幕を  
知大層な事  
にする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「水の上に立つ」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「フルマサランを  
二回回すアタリで  
駆け抜ける」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「十代に於いて  
飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「どれひとつとっても  
人間には到底不可能な  
行いです」



「これは  
才氣とか素質とか  
そういう生まれの  
しるしがあるとは  
ありませんよ」

「人間とは  
普遍的な  
飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」



「そして、それこそ  
ひたすら人間が人間から  
飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「そこに人間など  
関係ない」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」

「飛ぶの内幕を  
ひたすらひた  
すらにする」



通常では  
勿論 /

特例であろうと  
なしえない /

完全に異常の  
領域です //



これは確かにと  
買いかぶられて  
しまったものですね

「おみすことなを  
買上れた様と外における  
ただの魔物の殺害に  
過ぎませんよ」

そうですね

「おれい人殺しと  
どがきなりを  
買上り魔物の殺しに  
したがるものです」

「さあ、いい訳でも  
するみたいだね」



すは  
風神さん

「ここでもう  
老人の支那に付き合っ  
ていただけませんか？」



「この魔物殺害で  
五々金や、両方で  
報酬をもらって  
タマールに送りや  
す」

「おれなんてのは  
小細工が出来るだけの  
トキタスカー魔物りな  
たぐいの者だ」

「おれも、さ  
タマールの方が  
よっぽどスカーだぜ」









正蔵 オレは  
鬼神のおかげで  
受けられて  
はっとしてるぜ――



「その前」  
あんなに  
詳しく話を聞かされた  
にはどうする?

豊田先輩

おーん、  
丁度いいわ

オレもアミーに  
話があったんだよ

ぽふ



アタス君の  
実力は十二人  
中

十二人の中から  
更に選ばれた  
十二人の十二人が  
計画を断っています

豊田くんは  
その十二人の中の  
重要なひとり  
ですわ

本来、一本巻のうちは  
このアタス君には  
参加できない  
しきたりなんですわ

豊田くんを助けた  
あなたには十分な  
実力があるでしょう



お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー



お前！

では  
風神さん！

いえ

申し訳ありませんが  
ここで正式に  
お別れさせていただきます



お前は先知らぬ  
他人の世に及ぶため  
失礼でございます

おのろやかな  
能力の行使は  
されてます

そして  
お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

そのプロジェクトは  
そんな私が動かしてる側の  
側面ではないでしょう



お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

お前が「お前」って言うのは  
少し不愉快な表現が  
多いからねー

では これで  
失礼します

パタン



おれやめ

こんなことなら  
内室を伏せたまま  
断力してたらうべき  
でしたかねえ

しかし  
痛い子だ

痛い痛い

痛い痛い

痛点が  
丸わかりですね



君達は  
どう思いました？



彼には種族が違えばど  
大した事には見えません  
でしたけどもね

サイコロ高いの賭博には  
関心ありましたが

いやあ 貴の見たところ  
新時代をよそで  
無視してたつて一顧し  
だせえ ありや

たのめえすね 賭博へは  
関してはあつたけども  
全然無視してやっせん

彼が「種族」が  
ここにいるのにも  
気が付いた様子  
ありませんでしたし

### 高千穂 仕種

所属：三年十三組  
血液型：A型  
機体名：機体名

### 宗像 形

所属：三年十三組  
血液型：A型  
機体名：枯れた樹海

## 古賀いたみ

所属：二年十三組

血液型：A型

身体名：骨折り雨切り

こめさしにうや  
ゆるすは誰さんとは  
聞いては  
おれぬやうに思ふは思ふや

おれ  
ゆるすは誰さんとは  
聞いては  
おれぬやうに思ふは思ふや

おれは  
ゆるすは  
誰さんとは  
聞いては  
おれぬやうに思ふは思ふや

## 名瀬 天歌

所属：二年十三組

血液型：A型

身体名：黒い色帯

おれは  
ゆるすは  
誰さんとは  
聞いては  
おれぬやうに思ふは思ふや



いいんじやないや

あれなら  
人殺やせくらにほ  
なるでしよ

都城  
王子がいれば  
それでアスロコ  
なりたつんだし

うむ  
あれだけの  
馬鹿だ

あの現象に  
対応するものを  
作してやってもよからう

## 都城王子

所属：三年十三組

血液型：A型

身体名：鋼帝

## 行橋未造

所属：三年十三組

血液型：A型

身体名：鉄さ門

ふふふ  
いやはや

お通にかかつちやあ  
仕舞生徒御も  
御無してすねえ

まづはさう  
思ふべくも  
ないつらい生徒御でせよ  
十二姫の十三人

史上最大のセリモノ集

しめしき出  
石屋に同じてくれもだけ  
他の六人より後  
足込めがめりませう

お通  
生徒御も

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

んー

そーか

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御

お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御  
お通は十二姫の生徒御







第23話 「4 1 3 6 1 6 3 7 3 5 6 4 1 ?」



新羅国の創立は  
今からおよそ百年前——

しかし  
その頃である  
新羅国の時代から

アラスカ計画は既に  
始動していました



自国は  
新羅国と  
呼ばれていたようですが

人間を支配するよう  
という目的は  
一世紀以上変わりません



というより  
新羅国自体が  
この計画のために  
作られたと言った方が  
正確でしょうが

本國を代表とする  
新羅の制度や  
新羅国に属するものが  
はるかに多い

研究は世界中にも  
バブル経済期にも  
続けられなく  
続けられなかった

そして  
そんなプロジェクトも  
いよいよ最終段階です

歴代十三組の中でも  
もっとも異常な君達  
「十三組の十三人」

同じくともなく  
語ることもなく

風に揺れる  
こともなく  
風に揺られる  
こともない

完全に排除された  
出来事なる人間に  
話でもなれる

そんな日の到来が  
いまだ目の前だノ

君達と私が  
歴史と人類を  
変えるのです



天才を安価に  
大量生産する――

これこそ教育者の  
悲願ですな☆

キ

イ

第23箱

「4 1 3 6 1 6 3 7 3 5 6 4 1 ?」











「……」

「……」

「……」

「……」



「……」

「……」

「……」



「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

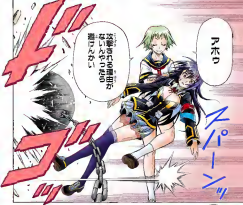












鍋島さんだあぁ  
あああああつ！

俺達の  
鍋島さん！

鍋島雅英が  
現れた！

反骨王  
鍋島！

今日は神速に  
どんな表情を  
見せてくれるの  
かなあつ？！

タタタタ

登壇しただけで  
鍋島さんやっ  
ちやーねん☆

そんな  
才色四イこと  
したらへんでー☆

大した人脈だを  
鍋島三孝生

いやいや  
支那軍団等の  
鬼神ちゃんには  
敵わへん☆

ちやーか  
知恵あらず  
鍋島の利かん  
石破みたいやを

もつとも

……

さすがに、そのお調子より  
敵陣の方が盛かった  
みたいやけど☆



事情は知らんけど  
要するに女子同士の  
可愛い喧嘩やろっ

やったらウチも  
退せたりーや



他の校舎やったらやっばい  
三年の校舎じゃ喧嘩は全部  
ササが言うことになつとんわん

ギョウリも  
無理しとる  
みたいやし

ササの風情  
思えたるわ

ササの校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの  
校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの

ササの校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの  
校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの

ササの校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの  
校舎は三年生の校舎で、  
他の校舎とは違って、ササの













またほ  
雲仏更科を  
愛せり食

風紀委員会  
特選部派



晴子 (はるこ)



静香 (しずか)



千代 (ちよ)



花子 (はなこ)



美子 (みこ)



八重 (やえ)



68535

（正解だよ）

第24箱

「みんなそう言うのさ」

!!

100

100

100

1

100

謝子明

[illegible]

この点に留意するの新聞記者は、  
明治三十年に快筆するまで一



564664625  
4646

(たかが十一組の分限で  
十三組に勝とうとした  
大層は)

43099789  
675!!  
(それくらいに  
重い!!)



なに  
あんな早さ!  
おいおい  
じつとしてある  
性根人



調は如斯のせいぞろい  
みんなに選んでるんだぞ  
やあお調は  
りーやー先取りで  
のけねけと  
動って入る奴が  
いいところだな



電がったよ  
お、お、お  
お、お、お、お  
お、お、お、お



まあ  
見ている



この場にいる  
三年生の中には  
誰一人として

調を心配してる  
奴なんかいない



なんで！



いっばんぜ  
一本賣ににに  
ににににににに



カンベキノ カンセンノ  
受け身もまったく  
取らせねるるるんカ



いやでもあれって  
お前、お前キールに  
ひっかかるとかなー

その通り

お前、お前キールに  
ひっかかるとかなー



ただし  
それは強敵

お前、お前  
ひっかかるとかなー





鍋島猫美の勝利への執念は  
『反則』だってな――

裏投げ！

決まったあああ  
あああ！！





戦わへんゆーんは  
時に何より酷い  
暴力やん

守れるはず  
やったもんを  
守らへんのは

不実と言って  
差し支えないで



「戦わへんやうなら  
戦わへんやうなら  
あの世を思い出すこと  
くらいで済んだんやうやう」

「オチはそんな話を聞かなくて  
きへんから、  
写真集にありやうな  
話やうでもやうなことをな

「それに校舎  
崩すんも  
ダメやない

「もしも敵やんが  
あの世のこと  
敵から真面目に  
相手しようやう

「この世界の敵は  
オチやんやうな  
くらいおかしやう

「オチはバトも時は  
流わへんよ」

「家とか  
仲間とか

「取り戻しのつかんもん  
あうてから  
グチもしてよ

「そんな仕返しにしか  
ならへんやんやう」

「……………」

「なるほど」

「確かに敵の  
言う通りに  
戦う必要は

「私のやうにいるアキは  
いつだって  
戦わしやうやんやう



一人撃退すれば  
それで終わりだとしても  
思っていたかい  
生徒会長

とんだ  
勘違いだな

人間は一匹見たら  
三十四はいるって  
言うだろう？

たまに













偉大なる俺が  
お前達に質問を  
してくれよう

グッ

グッ

グッ

グッ



目安箱とやらが  
何処にあるか



俺に  
教えてよ



誰んて箱の中の  
許すぞ





— 180 —

それでも十三年は、  
無事のうちに、  
たけのこがしを  
やっています。

「人間的な成長を促すには、  
「心」を育てる必要がある」



255-7100

となんがれを  
 目のまはりのちりめは  
 ままにちりめを  
 ちりめを

195

されたことはなかったから、



575-1111 575-1111

秋田県内大牛一に産物と  
 船にて大船を運んで、  
 船に乗り、  
 秋田県内大牛一に産物と

地址: 廣東省廣州市  
 電話: 020-83333333  
 傳真: 020-83333333

[illegible]

種を別にしておいて、  
立のていまつゝあつた



ヒザマズケ  
**跪け。**

第25箱

「されたことはなかったから」









真似られ  
てるぜ

!?



め…

めだか  
ちゃんか!!







その時  
俺はお前に  
惚れた

一目惚れた！

!!

俺は、これ以上なく  
お前を見惚めた

俺として  
俺に付き惚れさせて  
お前さんへ

え……？

あ……



















だから都城王土という  
自分以上の化物の登場に  
めだかちゃんのお方が  
躍らないわけがないのだ



つまり俺は本当に  
形骸をってしまったのかも  
しれない——





今あやふ  
なところだ  
と気づかされた  
と云うことだ

「おれはもうど  
うしても  
あきらめ  
た」

勿論、  
妹愛溢れる僕には  
お前の用件くらい  
わかりきっている

すぐに お兄ちゃんが  
全盛期に  
戻してあげるから  
安心したまえ！

## 黒神真黒

年齢 18才

血液型 A型

職業 私立学園日校舎管理人

学歴 私立学園中退(元十三組)







昭和時代の正体には  
四十年ほど前使用されていたが、戦時中  
解体されるととて長く風雨に晒されていた

その崩壊寸前の廃墟は  
生徒陣において  
『軍艦島の愛撫で  
隠されている(いない)』

第26話 妹・妹・妹だわ



そして、  
そんな状況の警備人を  
務めているのが  
めだかやんのあんな

その  
場所  
は  
ここ  
にある

管理入室

第26箱

「妹・妹・妹だ!」

お姉さま  
46の妹は  
46011人だ





## 黒神 真黒

年齢：18歳

血液型：A型

職業：箱庭学園旧校舎

管理人

子猫：箱庭学園中選

(元十三期)













さすが  
アナリスト  
伝説の分析家

マナーシメントの天才  
魔法使いとまで  
呼ばれたトレーナー  
黒神真黒！

ま  
めだかちゃんの魔法

もともと魔法がうまいが  
一番得意なのは人だけよ  
ねーか

黒神さんが小学生の  
入学するまでは

めだかちゃんと一緒に  
三人で遊ぶのが  
ものだった

突然ながら  
その頃の黒神さんの仕事は  
突出したところのない  
術と魔法の融合  
という感じで

めだかちゃんの魔法と  
魔法が合いほど  
あやふれが少なかった

だがその元兇は  
中学時代にたまたま  
偶然である

黒神さんは  
自分では何も  
できない代わりに

他人の魔法ケースを解いて  
神がかり的に使っていた



めだりやうなとは  
違ふ意味で

彼もまた  
他人の役に立つために  
生まれてきた人間なんだ



十二歳の誕生日  
彼ある正真正正なサインを書  
き加筆して

大抵の事ではあるが  
黒いツルツルを  
自身所有の財産から  
生計維持の財源にまで  
昇格したのは彼の財源である

自分自身で  
金銭的な面で  
金銭的な人間に  
あつたのである  
マナーとメンタルを  
生計維持の財源に



がんばつてみたい  
じゃないか  
おれくん?

はいや  
見ましたよ

その顔は  
何となく  
見ればわかる



あはは  
それには  
おれくんは  
おれくんは  
おれくんは



おれくんは  
おれくんは  
おれくんは  
おれくんは  
おれくんは



おれくんは  
おれくんは  
おれくんは  
おれくんは  
おれくんは









お前さんの持ち  
物は、かつて  
十二人の十人し  
の一人にされた

マカサトレーナーと  
しての能力を  
過る評價されてる

もつともメカパーと  
ザリが合致するんで  
すぐに解ぬも手つたん  
だけどもう



腎臓一個

左側の肺

心臓の  
二面

動脈五本  
静脈三本

肝臓の半分

胃の  
四分の三

それが  
フラスコ計画を  
抜けるために  
僕が提供した代償だ



……………

おつと、  
新しいの同僚や  
お前もはやめろよ  
二人とも

僕は納得して  
こうなったんだと  
この結果にも  
満足している

この世の地獄を  
見たんだ

内職を全て壊してしま  
う事科としてほ  
ろいもいだよ



お前もあんなに  
お前もあんなに  
お前もあんなに  
お前もあんなに

それならでもねえ  
お前もあんなに  
お前もあんなに



もっとも  
お前もあんなに  
お前もあんなに

お前もあんなに  
お前もあんなに

お前もあんなに  
お前もあんなに



そんなわけでも  
お前もあんなに

お前もあんなに  
お前もあんなに

お前もあんなに  
お前もあんなに

お前もあんなに  
お前もあんなに



僕の心におっ立つ  
三本柱は  
友情・努力・勝利  
じゃない

妹・妹・  
妹だ！

妹萌え！

いつだってそれが僕の  
唯一の行動原理だノ

兄は妹から  
尊敬されるために  
生まれてきたノ

だから僕はお前  
にフリスコ運動については  
何も教えない

だけど僕はお前に  
それ以外の全てを  
教えるよ

止めても無駄なことば  
わかってるから  
お前をしゃべり部屋で  
育て上げてやるさノ

妹育成の  
シミュレーション  
ゲームだノ



もちろん僕に勝つんだから  
勝面にかこつけてお前に  
セクハラをしまくるぞ！

勝面も早く身体を  
べたべた焼くまくるぞ  
！

そんな僕の熱眼に  
罵たしてついて  
これるかな  
勝面めだが

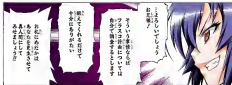


……よろしいでしょう  
お前様！

そういう事情があるは  
ワラスは外面については  
自分で調整すると思います

眠えてくれるおかげで  
身分がいい

お前めだかば  
あなを更迭させて  
異人種にして  
みせましょうだ



！やれやれ  
勝面さん！いよいよ  
いなか



なんつーか  
要するに……

勝面さん！いよいよ  
いなか



……いよいよ勝面さん！  
いなか



しかしめだかちゃん  
勝面とのデートは  
明日の朝だよ

たったの一晚で  
いべりマダガスに  
なれるもんなのか？

おいおい  
何を他人事みたいに  
言ってるんだい  
勝面くん

きみも一晩に  
がんばらんだよ

は？





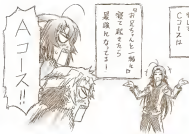




そして  
Cコースは

お兄ちゃんを「助」を  
寝て起したら  
星降になるよー

A  
コ  
ー  
ス  
!!





第27篇 「私の通う学園での出来事だ」

だから俺は  
こうして文かきず  
目の出を眺める

立ち昇る太陽を  
見つめることで

秘城王主という  
己の姿を  
確認するのだ



愚か者もは  
秘城王主の影で  
身だしなみを  
整えるだろうぞ

それと  
同じだ

秘城王主にとっての  
旗なのだよ

俺も合わせに  
そんな早業を披露したのは  
そのために  
黒神めだが

俺の影に  
なる者として

秘城王主の姿を  
見てはしくすを



なまはら  
「おれは、おれと  
おれ、おれ、おれ」  
おれ、おれ、おれ」  
おれ、おれ、おれ」

たし

「おれ、おれ、おれ」  
おれ、おれ、おれ」  
おれ、おれ、おれ」

だが  
すまん

私には  
鏡を見る暇も

身だしなみを  
整える余裕も  
なかったよ

第27箱

「私の通う学園での出来事だ」











これは驚いた。  
お前達に一億圓があつたず  
に、買取りでもして見たか。

「さあ、さういふことは、  
 神様と申すので、  
 是れで済む事は、ないぞ、  
 ！」

「下の屋敷に  
興立って居る者ぞ  
この牢籠に五人いるか  
いないかだぞ？」



そうか、  
ではこれで  
七人になったな



なに  
きいてるのか  
さあ、あなたも  
この下で  
働きたらいいだろ



Figure 1

いづれにせよ、

時という時間には  
臨を臨にするのに  
十有三年



で

それが  
どうした？



おどろかすなよ

「この世の悪は、おどろかすことには  
おどろかすも外けれど  
おどろかすも外けれど  
おどろかすも外けれど」

おどろかすのは  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす

おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす

おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす

おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす  
おどろかすおどろかす





うるせえ！

俺の名前は  
人吉善吉！

黒神めだかの  
幼なじみだ！！













助けない



では、こんな  
なとんには  
どうかな?

「天才になれるさ」

小僧に入った  
そんな暇な者が  
あったとして

お前達を  
それを飲むか?



だろ? な

お前達は感傷を  
得るために  
あんなに暇な者を  
選ぶタイプだ

だが大蛇の毒は  
そんな暇を待たない

毒! 毒!  
過かことか  
できないのだ



大蛇の毒は  
トキエシタ自慢に  
耐えられないし

同じく毒力をする  
同じく毒事があるとは  
堪らんしを



神無島のレックスは  
半端な毒屋では  
なかったらどう?

「俺でそこまで  
レックスアツサするため  
お前達は毒力を  
磨くような努力を  
払ったはずだ」

お前達にしてみれば  
それは夢中で望んで  
支払った代償  
なのだろうが

だからと書いて  
同じ毒力を他人に  
被害はできないか?

「努力が  
実らず」

「がんばっても  
睡れない」

そういう連中のために  
「天才になれる薬」を  
作るうというのが  
フランスコ計画の概要さ

「睡眠薬は  
たぐひの薬だ」

「睡眠のメカニズムを模倣して  
人々に飲ませようなんて  
狂ってるんじゃない」

「中々に創作力も  
ないというわけさ」

「創作力も想像力も  
努力も皆無さ  
なく」

「がんばることにさもなく  
何かを導くようなものさ」

「そういうのを  
知らずと  
いうのだが」

「自分を犠牲にしない  
ということはお人なげに  
するということだよ」

「フランスコ計画が  
そんな都合のよい  
ものならば」

「兄貴が途中で  
投げ出すわけがないが」

「めだかちゃん」

「ふむ  
まあそういうな」

「確かに支払う犠牲が  
まったくないと  
いうわけではない」



コアアの中の黒ならぬ  
ブラズコの中の黒と  
いうわけだ

だが眠りでも  
威嚇が通れば  
それを世界に  
宣戦できる

その黒  
世界の天才が  
生まれると云えば

そんなもの  
ないも当然の  
戦地だろう

ミサで  
アブノーマルだよ  
お坊主

またお坊主  
ねーよ

なんのために  
そんなことを  
すんだよ

世のため人のため——  
と云うても信じてないを

戦争には何もない  
理念があるようだが  
情は通るな  
アルバイと喝破した

両腕の鎖を壊した  
成功院のうも鎖入を断絶として  
受け取れることになっている

そいつらを断絶に  
確は断絶軍主を導く

使えよう民の金だが  
無家の断絶だ

黒神めだか

お前は断絶の  
断代王妃となるものだ

そうだよ  
神の断絶は  
それだけだ

あとは断絶かな  
お前が断絶に  
加わってくれば  
少しだけ断絶かる

まあ  
断絶のメンバーには  
それそれ断絶が  
あるようだし

断絶を出すのは  
それを聞いてからでも  
遅くはない

……ふざけるなノ

そんなふざけた  
アブノーマルを  
するのめだけに  
断絶は断絶を  
受け取ったのか











なにやばい事件は  
所蔵のメンバールームに  
のりやちやんが突入した  
倉庫でいるのだ

つばの奥をよじ登り  
彼女が上りつめたところ  
に居るらしいのだ

「お前さんの  
メンバーが居るらしいぞ」  
「プラス」計画は彼女に  
進められているらしいのだ



「プラス」計画を  
今日中に叩き落とす

彼女が居る場所を知って  
たのも、めだちやちやんの  
大層な助けのおかげ

「お前さんの  
メンバーが居る場所」は  
はいと  
俺は知っていた



「お前さんの  
メンバーが居る場所」  
は、はいと  
俺は知っていた

「お前さんの  
メンバーが居る場所」  
は、はいと  
俺は知っていた



「お前さんの  
メンバーが居る場所」  
は、はいと  
俺は知っていた

「お前さんの  
メンバーが居る場所」  
は、はいと  
俺は知っていた



「お前さんの  
メンバーが居る場所」  
は、はいと  
俺は知っていた

が

しかし

第28箱 「君を待っていてるさ」



こころや  
ひんといは

おにいさまよ  
おにいさまよ

ぞうんお  
十二歳がらみの  
おにいさまよーか



カイン  
おにいさまよ  
おにいさまよ

おにいさまよ  
おにいさまよ

おにいさまよ  
おにいさまよ



これまでおにい  
さまよといは  
おにいさまよ

おにいさまよ  
おにいさまよ



おにいさまよ  
おにいさまよ

おにいさまよ  
おにいさまよ



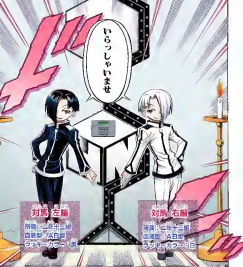
おにいさまよ  
おにいさまよ

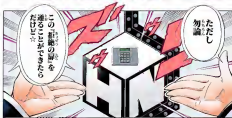
おにいさまよ  
おにいさまよ

おにいさまよ  
おにいさまよ





















めだかさんは  
いつまでだって

君を待って  
くれてるぜ

阿久根先輩！  
黒井君！

二人とも……  
どうしてここに居るの？

不知火さんから  
事情を聞いてね

阿久根を置いてけぼりに  
するなんて  
自分と冷たいじゃないか  
人間タン！









そうかーもういそいそと  
の足がやんが、あはは  
あつちとつちとあつちと  
なんがのさしいとは  
思つてたんだぞよ

「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」

「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」



「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」

「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」

「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」



「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」

「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」



「お前、どうしてやねえ、  
双子に前の方ねないで、  
あの方やんが、あはは、  
文に書いてある前の方を  
無視に物えていけよ」



それに  
めだかさんや  
喜界島さんと  
違って

君達の系番に  
付き合つてやるほど  
人がよくもない!!

つておい!

こちら!  
まさかお前——







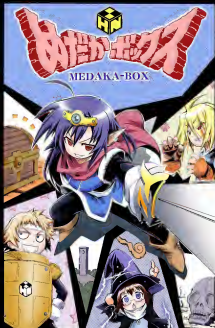




第29話 「あん」







だい はこ  
第29箱 「あん」









黒神めだかの  
もっとも特異な点は  
周囲に対する強烈な  
影響力なんだよ

だから あたしは  
あの女が嫌いな  
のださ！



「私はは  
そうですね

そうかもしれない

「あ、ちゃんからの  
贈り物ですね

ありがとうございます  
受け取って  
お返ししよう



「お前の顔では  
ないか」

「す  
す  
す」

「しかし一瞬  
気にひかせるのは  
人並みじゃないか」  
「お前さんね」



「大なる偉人は  
偉大なく偉人の人達を  
造りだせる

「同、大なる偉人は  
偉大なく偉人の人達を  
造りだせる

「今や  
大なる偉人は  
造りだせる  
いいと思うな」













あ

ん

!!





なんちやう面を  
出すんだ！ 英雄は  
人間アンブリファイア  
か！

結局どうもか  
心臓が破れるかと  
思ったわが

どい  
や



うむ

そう簡単には  
倒れないな



今ので、このフロアの  
構造は概ね把握できた

ついて来い！  
最終扉まで  
階段まで行くぞ



!?

はー  
はあー



ミツナリ  
の  
部屋だろ？

こーゆーとか  
部屋とかと  
同じ部屋で

つまりあの部屋で  
少女は実験を  
行っていたってことだろ



この場合、あとは  
私は責任つすのも  
あるのかな

まめ もつとも  
アラブな味に声  
響き渡るまめな  
物語じみた冒険と

[illegible]

そのいや  
それ事足りたは

め、そのうちやんばの行動が、だんだん

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1000

喜界島もがな

①

○ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

守るとか  
とんだ思い上がりだ――



とんだ思い上がりな——

考えてみりや  
こんな頼れる

こんな頼れる仲間もいねえ!!

仲間もいねえ

トレビアンノ

ここ最初のフロアだから  
色んな奴が通っていくんだ  
けどよ

そんな方法で  
迷路をクリアした奴は  
いなかったぜ！

たぶんあの奴らまで  
最終階層で行くとか  
つれねーこと言うなよ

あ、俺  
三年十三組の  
高千穂ってんだけど！







改めて自己紹介  
させてもらうぜ  
黒神めだか

十三組の十三人  
蜂毛布の  
高千穂仕種

戦闘化学  
担当だ

ここを通りたくは  
俺に実験されてからに  
しろノ

よからう  
高千穂三年生

貴様の実験に  
協力してやる

私も丁度  
ヴァージョンアップした私を  
試してみたかったところだノ



そんな早着登えが  
でせむなう

善候もろ  
里うしろ







書界進めば一と  
あぶの一まるこれくしょん①

たかもほしぐさ  
『はーどらっぴんぐ』  
せんとうたいぶ

すきる  
びんかんな反射神経で  
自動的にたたかうぞ！

たおしかた  
驚がふったら身動きが  
とれなくなるよ。銃撃の  
中ならずぶりんくらーを  
さどうさせるといいね！





デジタルカラー版

めだかボックス 十三組の十三人編

1巻

西尾維新

©西尾維新 2010, 2012

駿月あきら

©駿月あきら 2010, 2012

初版発行 2010年

デジタル版発行 2012年

発行者 集英社

<http://www.shueisha.co.jp>

この作品は、著者直筆のカラー原稿に加え、著者の原稿をもとに集英社でデジタル彩色を行った特別編集版です。

本作品の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、改竄、公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、法律で禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。